

資料1



# 防災教育推進連絡協議会 成果報告シンポジウム



# 本プロジェクトのねらい と 活動実績・成果

文部科学省「リスクコミュニケーションのモデル形成事業」

## 姿勢の防災教育を通じた災害文化の形成

国立大学法人 群馬大学

### 目的

自然災害による犠牲者ゼロの地域社会の実現を目指し、

**小中学校における防災教育を推進し、  
それを継続する仕組みを構築**することにより、  
**地域の災害文化の形成およびその定着**を図る

文部科学省「リスクコミュニケーションのモデル形成事業」

## 姿勢の防災教育を通じた災害文化の形成

国立大学法人 群馬大学

### 手段

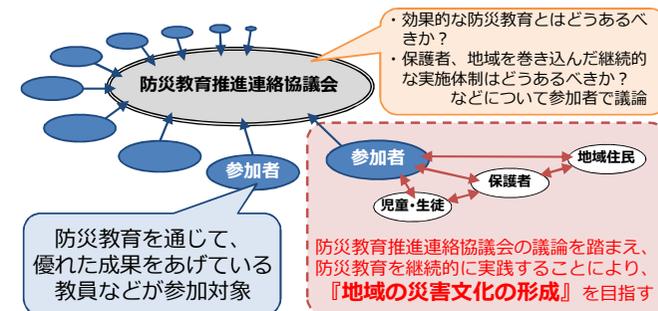
この目的を達成するために…

**防災教育推進連絡協議会**の開催を通じた  
**“人材育成”**と**“実践継続のための仕組みづくり”**を  
行う

文部科学省「リスクコミュニケーションのモデル形成事業」

## 姿勢の防災教育を通じた災害文化の形成

国立大学法人 群馬大学



## 第1回 防災教育推進連絡協議会 in 釜石



- 平成26年12月26日-27日に開催し、全国各地から51名が参加
- 各地域の実践に関する情報交換（8地域から話題提供）
- グループディスカッションを通じた意見交流
  - これまでの防災教育の実施効果
  - 効果的な防災教育に求められること
  - 防災教育を継続的に実践していくための仕組みづくりに求められること

⇒ 防災教育推進連絡協議会を立ち上げ、「今後、何を議論していくべきか」等の  
**問題意識を参加者間で共有**するとともに、**参加者同士で交流**する機会となった

## 第2回 防災教育推進連絡協議会 in 田辺



- 平成27年8月20日-21日に開催し、全国各地から98名が参加
  - 第1回での議論を踏まえ、「**防災教育に求められるコミュニケーションカ**」と「**家庭・地域との連携した防災教育**」について、パネルディスカッションとグループディスカッションを通じて、意見交流した
- ⇒ 生徒児童の災害に対する“**わがこと感**”や“**リアリティー**”を高めるための「**心をゆさぶる発問**」と、実践的な防災教育における「**家庭・地域との連携**」の重要性とその具体的な手法についての問題意識を参加者間で共有した

## 第3回 防災教育推進連絡協議会 in 黒潮



- 平成27年12月27日-28日に開催し、全国各地から130名が参加
  - 第2回の議論を踏まえ、地域が一体となって防災教育を推進している開催地の黒潮町の組みに関する開放座談会と、先進的な取り組みを実践している学校からの事例発表を踏まえて、「**児童生徒の心に響き、行動を変える授業**」と「**地域と連携した防災教育**」について議論した
- ⇒ 家庭・地域と連携した防災を題材とした実践的な**学習の効果**に関する可能性と、その**具体的なポイント**について議論することを通じて、参加者間で**今後の防災教育のあり方**について共通理解が得られた

## 今後の防災教育のあり方

### Point① 『授業の内容・位置づけの転換』

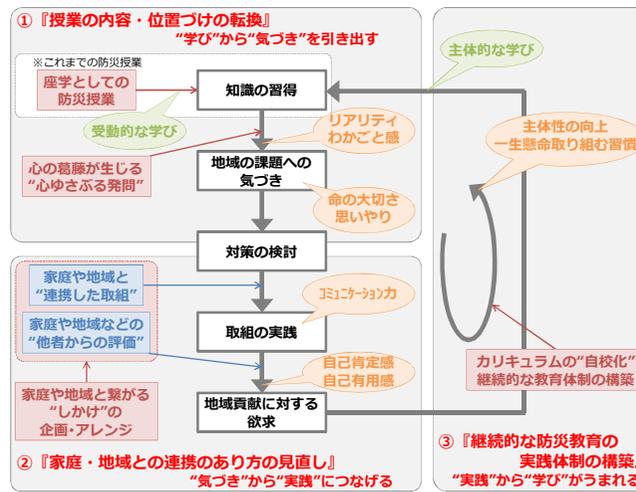
“学び”から“気づき”を引き出す

### Point② 『家庭・地域との連携のあり方の見直し』

“気づき”から“実践”につなげる

### Point③ 『継続的な防災教育の実践体制の構築』

“実践”から“学び”がうまれる



## 今後の防災教育のあり方

### Point① 『授業の内容・位置づけの転換』

“学び”から“気づき”を引き出す

・これまでの防災授業（学習）＝「防災に関する知識」の教示

・新たな枠組みの防災授業（学習）

- ※心の葛藤が生じる“心ゆさぶる発問（問いかけ）”が重要
  - ⇒家具の下敷きになった家族…助ける？／一人で逃げる？
  - ⇒地震発生時に自宅に一人…家族を待つ？／一人で逃げる？
  - ⇒目の前に逃げ遅れた人が…助けにいく？／助けにいかない？
  - 「災害に対するリアリティ」「わがこと感」の向上

※他者の存在を意識させ、「地域の課題への気づき」を促す

- ⇒一人で避難することが困難な高齢者や未就学児
- ⇒防災について無関心な大人
- 「命の大切さ」「他者への思いやり」の向上

## 今後の防災教育のあり方

### Point② 『家庭・地域との連携のあり方の見直し』

“気づき”から“実践”につなげる

・これまでの連携＝「とにかく何か一緒に活動する」

・新たな連携のあり方

※家庭や地域と繋がる“しかけ”を企画・アレンジする

＝家庭や地域と“連携した取組”の実践

- ⇒家具の下敷きになった家族 ⇒「家具の固定をする」
- ⇒地震発生時に自宅に一人 ⇒「家族間で信頼関係を構築する」
- ⇒一人で避難することが困難な人 ⇒「一緒に避難訓練を実施する」
- ⇒防災について無関心な大人 ⇒「マップをつくって、しらせる」
- 「コミュニケーション力」の向上

＝“他者からの評価”を得る機会”をつくる

- ⇒成果発表会を開催する
- ⇒児童生徒の提案を大人（行政など）が実現する
- 「自己肯定感」「自己有用感」の向上

## 今後の防災教育のあり方

### Point③ 『継続的な防災教育の実践体制の構築』

“実践”から“学び”がうまれる

・これまでの学び方＝「教師による教え込み」、「受動的な学び」

・新たな体制のあり方

※防災教育カリキュラムを“自校化”し、継続的な教育体制の構築する

- ⇒「共に学ぶ」「児童生徒の主体的な学び」が継続する仕組みを生む
- ⇒防災教育を通じた“人づくり”に対するビジョンを全職員で共有する
- ⇒管理職のリーダーシップ
- 「主体性」の向上
- 「一生涯命取り組む習慣」の形成

## 今後の防災教育のあり方

### Point① 『授業の内容・位置づけの転換』

“学び”から“気づき”を引き出す

### Point② 『家庭・地域との連携のあり方の見直し』

“気づき”から“実践”につなげる

### Point③ 『継続的な防災教育の実践体制の構築』

“実践”から“学び”がうまれる

### Point④ 『防災を核とした“子どもを育む環境”の構築』

“教育”から“文化”の醸成へ

## 今後の防災教育のあり方

### Point④ 『防災を核とした“子どもを育む環境”の構築』

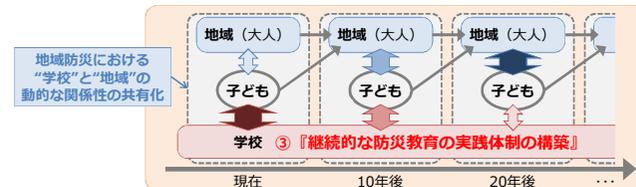
“教育”から“文化”の醸成へ

・これまでの地域防災＝「地域防災」と「学校教育」は別部局の対応

・新たな環境のあり方

＝地域防災における“学校”と“地域”の動的な関係性の共有化

- ⇒学校における防災教育の継続が、次世代の地域住民（大人）をつくる
- ⇒地域住民（大人）の姿勢が、子どもへの教育効果の多寡に影響する



## 第4回 防災教育推進連絡協議会



- ・平成28年8月20日に開催し、全国各地から43名が参加
- ・これまでの議論を踏まえ、各地域で新たに実践したことや実践を通じて得られた課題などについて、参加者から話題提供してもらい、今後の防災教育のあり方について議論した

⇒ 防災教育推進連絡協議会の成果

【人材育成と各地域で防災教育を実践継続のための仕組みづくり】

は、パネルディスカッションで確認